

「伊田安政津波の碑」

名称	伊田安政津波の碑（いだあんせいづなみのひ）
所在地	黒潮町伊田2941番地1
所有者	伊田浦地区・伊田郷地区
奉納年月日	安政元年頃
員数	1基

▣詳細について

碑文は次のとおり。

「すゝなみきたるとき八ふね十丁ばかりおきへかけとめ申事甚よし（以上小文字）

安政元甲寅十一月四日す々なみ来 同五日セツ頃大ぢ志ん大しお入

浦一同リウしつ 是よりさき百四十年より五十年まで用心すべ志

為後世 記之 松山寺住 行年六十四 文瑞 自作」

碑文から察するに、作者は147年前の宝永地震・津波（1707）について知っており、140年から150年後に次の南海地震が起きることを予測し、子孫に教訓を与えている。使用されている文字は、ほとんど崩し字が使用されておらず、現代人でも容易に判読することが可能である。碑文の最後は「後世のために、之を記す」と締めくくられており、作者の意を読み取ることができる。

以前は、津波が襲来した位置の伊田岸の川、通称二本松にあったが、川の改修工事のため昭和62年（1987）、約100メートル西の金毘羅神社の鳥居前（現在地）に移されている。

また、金毘羅神社の階段3段目まで津波が到達したという伝承があり、このことから日はこれに合わせた高さのコンクリートの台座に鎮座されている。

